

第 197 回定例研究会

5 月 19 日 (水)

於: 国労会館および Zoom

転換期の労働政治

多様化する就労形態と日韓労働組合の戦略

報告: 安 周永 氏 (龍谷大学 政策学部 教授)

序章 本書の課題と労働政治の変容

日韓ともに、従来の企業主義的労働市場の転換が進められているにもかかわらず、韓国の方で不安定労働者の保護がさらに強くなっているのはなぜであろうか。

第1章 制度変化と労働組合の戦略

- ・転換期における労働組合の取り組み
- ①労働組合がいかに権力資源を拡大するのか
 - 労働組合の非組合員の包摂
 - 労働組合と社会運動団体との提携
- ②労働組合が資源をいかに効果的に使用するか
 - 労働組合のアウトサイダー戦略 (デモ、ストライキ、審議会からの脱退)
 - 労働組合の社会協約: 自治体や市民団体などの多様なアクターとの協約

第2章 日韓労働組合の歴史と戦略

- ・日韓労働組合の戦略の違い
 - 韓国: 積極的な提携戦略の行使 (不安定労働の包摂、社会団体との連帯)、アウトサイダー戦略を重視
 - 日本: 消極的な提携戦略の行使、インサイダー戦略を重視

第3章 企業別労使関係の慣行と労働者代表性の課題

- ・政策過程での労働者代表性: 連合と韓国労総以外のナショナルセンターの排除、企業別労働組合の慣行から非正規労働者と中小零細の労働者が排除
- ・ミクロレベルでの労働者代表性: 労働時間規制における過半数代表者の重要性の向上 → 実質的労働者の代表になるのか問題

第4章 労働組合の戦略Ⅰ: 不安定労働者の包摂

- ・プラットフォーム就労の特徴
 - 従来の不安定労働との共通点: 曖昧な就労形態 (自営業者か、労働者かという論争)
 - 新しさ: 企業の資源の外部化の用意、アルゴリズムの利用 (指揮命令の特定化が困難)

第5章 労働組合の戦略Ⅱ: 社会運動団体と政党との提携

- ・社会運動の中での労働組合の役割
 - 日本: 労働組合と社会運動の提携の不在
 - 韓国: 労働組合の社会運動の提携 (給食の無償化、大学学費の半額化、朴槿恵退陣ネットワーク)

第6章 労働組合の戦略Ⅲ: インサイダーとアウトサイダー戦略の意義と限界

- ・労働組合の戦略
 - 韓国: アウトサイダー戦略と提携戦略
 - 日本: インサイダー戦略 (条件闘争) と非提携戦略
- ・インサイダーとアウトサイダー戦略の意義と限界
 - 日本: 条件闘争、経営や政府の一定程度の譲歩はあるものの、設定されているアジェンダの中での交渉
 - 韓国: 不利な状況から抜け出すこともでき、新たな仕組みを作ることも可能である一方で、何も得られない状況になる

第7章 労働政治のダイナミズムと最低賃金の変化

- ・韓国労働組合の戦略
 - 提携戦略: 最低賃金連帯の結成 (民主労総、韓国労総、社会運動団体)、労働者代表委員に青年ユニオン、韓国非正規労働センターを推薦
 - アウトサイダー戦略: 集会や最低賃金委員会への脱退宣言と欠席

第8章 新しい労働運動の可能性

- ・韓国労働組合の産別化 (金属労組と病院労組が代表的な産別組合)
- ・学校非正規労働者による労働運動の成果
 - 労働組合の組織化に成功 → 10 万人の組織
 - 労働条件の標準化 (各教育庁、教育部との交渉) + 勤続手当の導入

終章 民主主義危機における労働組合と労働政治の役目

- ・経済的不平等と文化的対立の深化
- ・資本主義の競争圧力に対抗するものとして制度化されている労働組合の重要性

*連絡先: 〒420-0851 静岡市葵区黒金町 55 番地 静岡交通ビル 3 階 301 号 (静岡県評内)

静岡県労働研究所 TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973

メール roudouadv@cy.tnc.ne.jp ホームページ <http://shizuokarouken.sakura.ne.jp/index.html>